



## SimNET 第4号発刊に際し 令和7年度を振り返る

### 藤倉輝道

日本シミュレーション医療教育学会理事長  
日本医科大学 医学教育センター



会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。またこのHP並びにニュースレターをご覧いただいているその他の方々におかれましても、当学会にご関心をお持ち頂きましたことに厚く御礼申し上げます。また駒澤理事のご尽力でこのSimNETも順調に発刊を続けております。是非ご一読いただきたく存じます。

本学会は今年度も無事に学術大会を開催し、また学会誌もオンライン化を完了し、発刊することが出来ました。関係者の方々のご苦勞、ご尽力により感謝申し上げます。

第13回学術大会は秋山仁志大会長の下、東京神楽坂にほど近い日本歯科大学で開催されました。初の歯科大学主催となりましたが、素晴らしい会場で大盛況の内に終了いたしました。「シミュレーション医療教育のさらなる充実に向けて」をテーマに、医・歯・薬・看護など幅広い領域からご参加を頂きました。特に、普段はじっくりと拝聴する機会のない歯科領域のご発表、シミュレータの展示などもあり大変興味深い、実りある学会となりました。

学会誌第13巻も無事発刊されました。今福編集長、浅田理事らのご尽力もあり、学会誌のオンライン化が果たされ、1年間は会員限定の早期公開と、PDFダウンロードが可能となります。これは会員特典です。投稿から査読、公開もスピーディに、年間を通じて行われるようになりました。

学会誌のオンライン化とも連動いたしますが、浅田理事のご尽力で学会HPの改善が図られ、会員専用ページが開設されております。今後はこちらで会費の納入状況なども確認できるようにして参ります。これに関係し、学会事務局の方では会員の皆様のメーリングリストの管理に苦慮しております。ご異動等でメールアドレスが変更になり連絡がつかない方がかなりおられます。ご異動、あるいは退会の際は事務局までご連絡のほどをお願い申し上げます。

ここ2年ほどでようやく学会基盤も確かなものとなりつつあります。学術大会のテーマでもありました「シミュレーション医療教育のさらなる充実に向けて」、令和8年度は新しいアクションも起こしていきたいと考えております。そして第14回学術大会は辻美隆大会長のもと、埼玉医科大学で開催されます。是非ご参集の程お願い申し上げます。

末筆になりますが、皆様の益々のご発展を祈念いたします。

## 年会費の納入のお願い

### 年会費について

本会は主に会員の皆様の会費により運営されます。会則により、本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までです。事務局宛にお申し出がない限り、請求書・領収書などの発行はいたしませんので、銀行振込の控えを大切に保管いただけますようお願いいたします。お納めいただいた会費は一切返納いたしません。振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

### 振込み先

お振り込みの際、「お振り込み人名義」に氏名を明記してください。  
三菱UFJ銀行 駒込支店（店番号061）普通預金口座  
口座名義 日本シミュレーション医療教育学会  
口座番号 0629866  
口座名：日本シミュレーション医療教育学会

よろしく申し上げます



# 第13回日本シミュレーション医療教育学会学術大会 開催報告

日本歯科大学附属病院総合診療科 秋山仁志

令和7年（2025年）11月29日（土）、第13回日本シミュレーション医療教育学会学術大会を、東京都千代田区の日本歯科大学生命歯学部富士見ホールにて開催いたしました。本学会として初めての歯学部での開催となりましたが、全国から多くの皆様にご参加いただき、対面開催ならではの熱気あふれる議論が展開されました。

今大会のメインテーマは「シミュレーション医療教育のさらなる充実に向けて」といたしました。急速に変化する医療環境や技術革新の中で、次世代の医療人をいかに育成すべきか、その核心となるシミュレーション教育の現在地と未来像を共有することを目的としました。

特別講演では、本学会の藤倉輝道理事長（日本医科大学医学教育センター教授）より「シミュレーション医療教育の5年後」と題してご講演をいただきました。生成AIや医療DXの進捗が教育現場に及ぼす影響、特にChatbotを用いた医療面接やVRを併用した技能教育の可能性について、近未来の教育の方向性を示していただきました。また、教育講演では田中真喜先生（医療法人社団誠敬会理事長）より「人材を人材に変える仕組み作り」をテーマに、多職種連携を支えるマネジメントや、ICTを活用した自発的な学習環境の構築について、臨床現場での事例を交えた示唆に富むお話を伺いました。

お昼の時間帯には、株式会社モリタ共催によるランチョンセミナーを開催いたしました。佐々木龍夫氏（株式会社営業本部モリタ学校開発部）より歯科教育におけるシミュレーションシステムの進化の歴史を振り返るとともに、最新のデジタル技術がいかに実習の質を向上させてきたか、企業の視点からの貴重な知見をご提示いただきました。

本大会のハイライトの一つであるシンポジウムでは、「シミュレーション医療教育の現状と今後に向けて」をテーマに、寺岡三左子先生（順天堂大学医療看護学部）より「看護学教育の立場から」、藤本哲也先生（北海道科学大学薬学部）より「薬学教育の立場から」、神尾崇先生（日本歯科大学生命歯学部）より「歯学教育の立場から」、駒澤伸泰先生（香川大学医学部）より「医学教育の立場から」、それぞれの領域における課題と展望が詳細にわたり提示されました。コンピテンシー基盤型教育への転換や3Dプリント技術の応用、シミュレータと模擬患者の融合実習など、領域を越えて共通する「教育の質保証」と「評価の可視化」という重要課題について、深いディスカッションが行われました。

一般演題においても、XRを用いた臨床推論、救急蘇生（BLS）の標準化、動画教材による自己学習支援など、多角的な視点から計18演題（口演9題、ポスター9題）の発表があり、若手からベテランまで活発な意見交換がなされました。協賛企業は12社から多大なる支援を賜ることができ、展示ホールでの企業展示ではさまざまな医療機器・器材に関する情報提供を行うことができました。

結びにあたり、本大会の開催にあたり多大なるご支援をいただいた藤倉輝道理事長をはじめ、実行委員会の皆様、そしてご参加いただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。本大会での知見が、皆様の各所属機関におけるシミュレーション教育のさらなる充実にご貢献することを切に願っております。



# 【コラム】愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター トレーニングルーム～施設管理者（臨床工学技士）として意識して いること、シミュレーションスペシャリストの会について～

愛媛大学医学部附属病院 診療支援部 臨床工学部門 小松真也

**吾輩は臨床工学技士（猫）である。笑いのセンス（名前）はまだない。**

臨床工学技士は医療機器の目まぐるしい発展により、医療へ医療機器が欠かせないモノとなりつつある中、医療機器の専門家として誕生した資格です。第1回臨床工学技士国家試験（1988年）が行われて40年の時が経とうとしています。2010年に基本業務指針の改定で業務内容が増加・明確化され、さらに2021年業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修（告示研修2021）が行われています（実施期間2021年9月～2027年3月）。今もなお臨床現場において多くの臨床工学技士が、医師の指示の下、生命維持管理装置の操作や保守点検を基本として、現場のニーズに合わせて医療の普及と向上に貢献しています。

その中、医療安全教育においてもシミュレーション施設が欠かせないモノとなり、各施設にシミュレーション施設ができてしばらく時間が経過しています。しかしその当初、そこを管理する人の役割の重要性を認識していた施設は日本において少なかったのが現状です。現在では管理する人の役割の重要性が徐々に認識されつつありますが、各施設の規模・保有物品や設備、利用状況や管理する職種・人数が異なり、定義付けが難しく、各施設の現状に即した管理の工夫・試行錯誤されているのが現実ではないでしょうか。

シミュレーション施設の勤務者は「医学と工学の知識を持ち、機器の適正使用の勉強会・教育に関わる機会が多い」といった点で臨床工学技士が適任であると言っていただけることもあります。シミュレーション施設の管理に臨床工学技士が関わり始めたという話を耳にする機会があり、導入段階で抵抗なく担当できるためではないかと考えています。しかし、実務経験を通じた個人の見解として、適任の資格は存在しないと考えています。最近の医療技術の進歩と同様にシミュレーション技術等の発展は目まぐるしく、現職に数年従事しても、すべてのシミュレータの全機能を把握しきれておらず、特に専門的な分野・内容に関してはわからないことが多いのが現実です。理想を述べさせていただくと、職種毎に各役割があり多職種で構成されている医療現場と同様に、特定の職種に依存するのではなく多職種で管理できる仕組み・体制が理想です。実際に医療を提供している現場スタッフによる管理体制が最善であると感じることがありますが、その時間と人員確保が出来ないのが現実ではないでしょうか。それらの視点から、わからない内容・分野であっても、医療資格に関係なく利用者に寄り添って研修に同席し、コミュニケーションを積極的に試みているかどうかで、貢献度が大きく左右していると考えています。一方でむしろ、わからない・知らないことがメリットに繋がることも経験したこともあります。利用者にとってわからない相手に伝える・教えることで理解が深まる点や、模擬患者を実施するには院内職員のうち事務職員の方が患者さんの視点に最も近い視点となることを身近に体験する機会がありました。シミュレーション施設の運営を陰ながら支えてくれる企業の方の中には医療資格を持たない方で活躍・ご協力いただいている方も多く、そういった点からもシミュレーション関連施設で勤務するのに適任の職種は特定できない、あるいはすべきではないのかもかもしれません。

私は養成校時代、臨床工学技士の国家試験の勉強を行う際、研究室のメンバーでお互いに説明しあう中で、“どうしたらわかりやすく説明できるか”を考えた経験が教育に興味をもった初めの第1歩でした。さらに学術大会への参加を通じて、医療安全に関する教育（シミュレーショントレーニングなど）に興味を持つことができました。さらに幸いにも様々な縁に恵まれ、臨床工学技士の資格取得後、シミュレーションセンターのスタッフとして勤務する機会を得ることができ、その勤務先にも様々なシミュレータや医療機器、設営器材などが設置されていました。それらを管理するだけでなく、それらを用いた教育支援に携わることで、さらに教授設計（Instructional Design）などの教育手法に関する興味を持ち、知識を深めることができました。様々な経歴を辿り、それらの経験の中で、現在は愛媛大学医学部附属病院のトレーニングルームの管理を担当させてもらっています。管理と一言で言っても、設備・物品・スケジュールの管理などを行い、研修の準備・片づけ、指導・支援などを行っていますが、利用者の状況に応じて対応内容も変更・変化させる必要があります。

普段私が業務を行う上で意識していることは、米国における**シミュレーションスペシャリスト**といった役割です。シミュレーション施設における研修がより魅力的で効率的かつ効果的な研修環境構築を目指しています。また、ちょっとしたプラスαの付加価値である期待以上の支援が重要なポイントであると経験的に感じており、このプラスαが利用者（指導者・学修者の両者）にとって「あそこに行けばさらなる発見、ひらめき、気づきを得られる」と、さらに利用したいと思う気持ちを強くし、利用者自ら学習サイクルを回してもらうために、シミュレーション施設で勤務する上で必要であると感じています。

さらに、より良い研修環境のために**酸素と潤滑剤**のような存在になることも意識しています。**酸素**は、普段生活する中で意識することはありませんが、ないと困る存在です（普段は自己主張することはないが、必要時に支援に現れる縁の下の力持ち的な存在）。また利用者が困っている場合には支援・ヒントを提供し（酸素不足には酸素を供給）、研修の内容を理解し、余裕のある利用者にはスモールステップで少し難しい問題の質問・問い掛け（酸素の薄い環境へ誘導）など、利用者の状況に合わせた対応がより良い研修に必要な不可欠と考えています。**潤滑剤**は、大前提としてシミュレーション施設の利用者には現場における行動変容が求められています。しかし、教えられたことは忘れやすく応用が利き難いため、利用者自ら考えて導き出してもらった経験を積んでもらう必要があると強く感じています。シミュレーション教育は失敗や成功を繰り返し体験できることが利点であり、そのためにも利用者の考えが述べやすい心理的安全性が担保された環境が必要です。利用者は先輩の指導者から後輩の学修者へ指導することが多く、指導者と学修者の間にある上下関係による摩擦・ギャップが多少なり発生している場面に立ち会う機会があります。そのような場面には直接利害関係に無いシミュレーション施設に働く第三者の存在が雰囲気を開鎖的な空間に陥らないようにするだけでなく、第三者の視点（他の研修を見てきた視点・専門が異なるからこそ感じる疑問点）によって、研修手法・内容について新たな発想へと繋がる可能性もあります。その摩擦の軽減・穴埋めを行う潤滑剤のような存在は重要だと考えているためです。また、シミュレーション施設での主役は利用者である点を忘れずに“多くを語らず、利用者に響く一言”を意識して、より良い研修環境の最善策を常に考え、自らも利用者との関わり方や研修についての内省を意識的に繰り返しています。**導入部の記載は、人間とは異なる猫という立場で客観的に物事をとらえる第三者の視点が必要である**といった考えから「吾輩は猫である」を活用させていただきます。

以上の考えのもと、2021年1月に愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センターに着任して業務を行っています。日本において初めて緊急事態宣言が行われた2020年度から2024年度までの利用者人数・職種および件数を図1に記載させていただきます。ここ数年利用者人数および件数が増加し、2024年度の利用者は8,000名を越え、件数も約800件も活用いただいています。シミュレーション施設をご活用いただける利用者の方だけでなく、日々の管理業務にご理解・ご協力いただけるスタッフによる支援の存在が利用者人数・件数増加を継続できていることに繋がっていると考えています。

## 【コラム続き】

その中、2024年に愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センターにシミュレーションスペシャリストの会（以後、本会）の事務局の移転の話をいただき、現在私は事務局長を拝命しています。本会は、2013年に設立され、シミュレーション教育に携わる者が、職種に関係なく学び合えるコミュニティの構築及び気軽に相談し合える環境の構築等を目的としています。事務局として年に1度セミナーの開催支援、メーリングリストを活用した会員間の情報共有などの活動を実施しており、本会は代表世話人 佐藤 直 氏（札幌医科大学 医療人育成センター）をはじめ、多くの実行メンバーのご尽力・ご協力いただいています。また、2025年に第10回シミュレーションスペシャリストセミナー In 金沢（金沢医科大学 クリニカル・シミュレーション・センターの石浦 夕奈 氏、石丸 章宏 氏、山下 敬吾 氏）を開催でき、ほぼ毎年立場の異なる職種のメンバーが参加しています。メーリングリストの登録者数については200名弱となり、さらに2024年に本会のホームページも運用し始めました。ホームページのホーム画面は図2の通りで、コミュニティの概要、セミナーの開催情報、お役立ち情報などを載せています（図3：ホームページへのQRコード）。興味のある方はぜひホームページをご覧くださいいただければ幸いです。

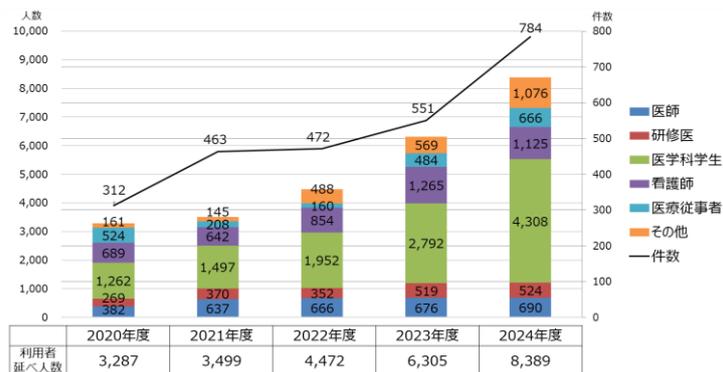


図1：年度毎の利用者人数・職種と件数

シミュレーション施設で業務する上で意識していることや愛媛大学医学部附属病院のシミュレーション施設の状況およびシミュレーションスペシャリストの会の紹介をさせていただきました。シミュレーション施設の利用者は実際の医療現場において日々患者さんと向かい合いながらも、自己研鑽・自己技術向上のためにシミュレーション施設を活用いただいています。そのシミュレーション施設における私の活動が医療現場における患者さんと医療従事者の両者にとって安心できる医療の提供、医療安全の環境構築に少しでも貢献できていれば、それに越したことはありません。今の自分があるのは様々な職種の方と関わる機会と支援をいただいた結果だと思っています。シミュレーション施設の管理等に縁の下の力持ちとしてご活躍いただいている皆様へ・読者の皆様にとって少しでも参考になる、モチベーションアップに繋がる部分があれば幸いです。最後にこのような貴重な機会をいただいた広報担当理事 駒澤 伸泰 先生（香川大学医学部地域医療共育推進オフィス）にお礼の言葉とさせていただきますと同時に、各施設の発展・ご活躍を祈って締めめの言葉とさせていただきます。



図2：シミュレーションスペシャリストの会 ホームページ「ホーム画面」



図3：ホームページのQRコード

## 編集委員会からのお知らせ

## 生成AI時代における学術発信の在り方

編集委員長 名古屋市立大学 今福輪太郎



日本シミュレーション医療教育学会雑誌は、2025年よりオンラインジャーナルとして発刊することとなり、13巻では、医学、看護学、薬学などの多領域から、研究報告、実践報告、教材シナリオ等、示唆に富む論文（計7編）を掲載することができました。また、2026年2月15日現在、新たに論文2編を第14巻に掲載しております。会員の皆さまは、J-STAGEにて本誌最新号をご覧ください。

オンラインジャーナルとしての運営にあたり、さまざまな課題もありましたが、オンライン化の特性を活かし、原稿の随時受付、採択後の即時公開（J-Stage）、カラー図の掲載などの取り組みを試行することができました。2025年12月末日現在、本学会雑誌の採択率は53.8%となっております。今後も、学術誌としての質を担保しつつ、シミュレーション医療教育における実践知の共有の場として、学会員の皆さまに有用な情報をお届けできるように、微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

先日、オンラインジャーナル化に伴い、投稿規定の表現を一部修正いたしました。詳細につきましてはホームページをご参照ください。  
(<https://jasehp.jp/category/journal/instructions/>) 今回の修正では倫理的配慮に関する記載についても見直しを行っております。特に、人を対象とした調査データを含む内容については、実践報告であっても、研究倫理委員会への事前相談を行い、必要に応じて審査を受けていただくこととなります。これは、倫理指針に基づく対応であり、国内外の医学教育系学術誌においても同様の運用がなされておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、原稿作成における生成AIの利用に関して述べさせていただきます。AI支援ツールは、アイデアのブレインストーミング、画像作成、文章校正など、研究者の創造性を支援する有用なツールであると考えます。一方で、近年、目覚ましい発展を遂げている生成AIですが、生成された情報には不正確さや不完全さ、あるいは偏った知見の提示がなされる可能性もあります。そのため、AI支援ツールによって生成された文言、画像、資料は、著者である人間が責任をもって確認・編集する必要があります。AIは著者資格の基準を満たさないため、生成された情報に関わる剽窃等の全責任は著者（人間）が負うことになります。今後も、研究者として、また学会雑誌として生成AIとどのように向き合い、学術活動に取り組むべきかについて、継続して検討していきたいと考えております。

# 第14回日本シミュレーション医療教育学会学術大会のご案内

大会長 辻 美隆（埼玉医科大学 医学教育センター）

このたび第14回日本シミュレーション医療教育学会学術大会大会長を拝命いたしました埼玉医科大学の辻と申します。

臨床現場など医療職の実践の場では、円滑な専門職連携協働（Interprofessional Work: IPW）が必要であり、そのためにも、それぞれの職種・領域についての教育に加え、専門職連携教育（Interprofessional Education: IPE）が重要であります。本学会には、医学、歯学、薬学、看護学など様々な医療系専門職教育に係わる会員が参加されておりますので、「専門職連携に活かすシミュレーション教育の展開」をテーマとしました。

埼玉医科大学は、医学部の他に、看護・臨床検査・臨床工学・理学療法の各学科からなる保健医療学部、短期大学看護学科、看護専門学校、関連法人の看護学校を擁する医療系総合大学であります。また、周辺の様々な大学（薬学・栄養学・工学など）とも連携しており、今回の学術大会に向け、学内外で協働してプログラムの企画・運営を進めてまいります。

会場となる本学毛呂山キャンパスは、埼玉県西部の自然豊かな地にあります。第13回学術大会は都心での開催でしたが、今回は都心から約1時間強の郊外での開催となります。ご不便をおかけしますが、多くの皆様をここ毛呂山の地にお迎えしたいと思います。

本学術大会が、様々な領域からの発表・報告、活発な討論、そして、多くの参加者との交流の機会となることを願っております。プログラムの詳細、交通・宿泊等については、近日ホームページを開設しお知らせするようにいたします。

みなさまの学術集會への参加をお待ちしております。よろしく願いいたします。

第14回日本シミュレーション医療教育学会学術大会

会期： 2026年10月17日(土)

会場： 埼玉医科大学 毛呂山キャンパス カタロスタワー

〒350-0495埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

事務局： 埼玉医科大学 医学教育センター

埼玉医科大学 毛呂山キャンパス



## 新理事挨拶 東京慈恵会医科大学 万代康弘



このたび、企画担当理事と国際交流担当理事を拝命致しました東京慈恵会医科大学の万代康弘と申します。

本学会の理事という重責を担うこととなり、身の引き締まる思いでございます。これまで諸先輩方が築き上げてこられた基盤を大切にしつつ、本学会のさらなる発展のために微力ながら尽力して参りたい所存でございます。

近年の医療現場における医療安全向上を目指して、実践能力の向上が求められる中で、シミュレーション教育が果たす役割は確実に大きくなっております。またテクノロジーの発達によりVR/AR技術の導入や、多職種連携教育（IPE/IPW）の深化など、私たちを取り巻くシミュレーション医療教育環境は急激に変化しており、指導能力向上や学習環境整備など解決していく課題も多岐にわたってきていると感じております。

私は今後、学会の活動として以下の点に注力したいと考えております。

企画担当として学会員の皆様がこの学会を通して期待されるような学術交流について実現をして参りたいと思います。ファシリテータ・指導者養成やシミュレーション教育組織運営、プログラム・シナリオ作成、教育事例共有など皆様のニーズに応じた企画を提案して参りたいと思っております。

また国際交流担当として、主にSSH（Society for Simulation in Healthcare）やSESAM（Society for Simulation in Europe）との交流を進めたいと思っております。両学会とも世界各国の学会と連携を深める方針を打ち出しておりますので、この流れに敏感に学会員の方々が国際交流を行う際にサポータティブな活動ができるよう尽力したいと考えております。

これら取り組みによって学会員皆様がそれぞれのシミュレーション教育指導において、お役だて頂けるコミュニティを作って参りたいと考えております。今後とも皆様の温かいご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



<https://jasehp.jp>

発行日：2026年2月28日

発行者：日本シミュレーション医療教育学会理事長  
藤倉輝道

編集者：日本シミュレーション医療教育学会広報担当理事  
浅田義和・駒澤伸泰

# 第14回 日本シミュレーション医療教育学会 学術大会

専門職連携に活かす  
シミュレーション教育の展開



会 期: 2026年**10**月**17**日(土)

会 場: 埼玉医科大学 毛呂山キャンパス  
カタロス タワー

大会長: 辻 美隆

埼玉医科大学 医学教育センター 教授



主催事務局: 埼玉医科大学 医学教育センター

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

TEL 049-276-1691